

第二の故郷 自作に反映

文人の 武蔵野

松本清張は1909年(明治42年)に生を享けます。清張はペンネームで、本名は清張です。福岡県の小倉生まれと紹介されることもありませんが、清張自身は、「読売新聞」(1990年11月12日夕刊)のインタビューで、実際の生誕地は広島だったとあかしています。出生年月日も、戸籍上の記録よりも10か月ほど早かったようです。特に作家の年譜的事項では、公式記

松本清張 ⑦



松本清張記念館では、高井戸にあった清張の自宅の書斎が再現されている(同記念館提供)

録が事実と異なることは珍しくありませんが、清張らしいエピソードだと言えます。小倉が故郷だったのは間違いないありません。40年余りを小

倉で過ごした清張が上京したのは53年、44歳の時でした。清張は、荻窪(杉並区)、関町(練馬区)、上石神井(練馬区)と短期間に転居しますが、61年に高井戸(杉並区)に広大な土地を購入して新居を構えてからは、そこを終の棲家とします。清張は、調布、布田、田無、小平、阿佐ヶ谷、三鷹、武蔵境、武蔵小金井、国分寺、立川あたりを繰り返し自作の舞台にとりあげ、「武蔵野」と呼びました。清張が暮らした荻窪は中央線、関町と上石神井は西武新宿線、高井戸は京王井の頭線か京王線です。それぞれの沿線域を南北に繋ぐバス路線があり、新宿以西の青梅街道をタクシーが走ります。清張が描いた武蔵野エリアと重なり

ます。上京した清張は、みずから居住する一帯を多くの作品にとり入れ、作中で念入りに武蔵野と名指したのです。40年近く暮らした清張にとっての「武蔵野」は、第二の故郷だったと言えます。(武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋忍)

おすすめの1冊

「一九〇九年生まれの作家たち」

松本清張と同年に生まれた大岡昇平、中島敦、太宰治、埴谷雄高の人生と文学上の軌跡を時系列に沿って紹介したのが本図録です。5人の文学者の年譜を通して、彼らが生きた時代を想像することができます。清張の作家としての人生は、太宰の人生が終焉した後に始まっています。



武蔵野



武蔵野支局 〒180-0006
武蔵野市中町1の13の1 3F
電話 0422(51)3131
FAX 0422(51)3133
musasino@yomiuri.com
都内版編集室
電話03(3217)1465・1466
江東支局 電話03(3631)6116
立川支局 電話042(523)4477
ホームページ
www.yomiuri.co.jp/local/

購読は
0120-4343-81

【広告】読売Palette
03(6272)9027
【折込チラシ】 0120-03-4343
【読売旅行】 03(5550)0666

10月14日(木曜日)
旧 9月9日<大安>

あすの暦

通日	287
月齢	7.7 (正午)
日出	5.46
日入	17.07
月出	13.57
月入	23.54
満潮	13.55
干潮	5.06
小潮	18.39

—東京標準—